

はじめに

本審議会は、平成21年3月19日に木更津市教育委員会から「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方に関する事項について」の諮問（資料編「諮問書（写）」参照。）を受けました。

また、この諮問に際し、「将来にわたって、学校教育の充実を図っていくため、本市教育環境の質の低下を招くことのないよう、概ね次の事項について具体的検討」を求められました。

- ① 学校間の児童生徒数の格差と拡大が、教育条件の不均一化を進行させることになることから、学校の適正な規模等について議論すること。
- ② 市街地と周辺地域における教育環境について、学校予定地の活用も絡め、学校の適正な配置のあり方について議論すること。
- ③ 厳しい財政状況の中で、市内31校の維持管理運営に加え、特に学校施設の耐震化対策は、喫緊の課題となっていることから、これらの現状を踏まえ、議論すること。

この諮問を受け、平成21年度は市内小中学校の現状と課題の整理、本市における適正規模・適正配置の検討等の審議を通し、早期の対応が求められている市街地・新市街地の18校の小中学校について、適正化に向けての方策をまとめ、平成22年2月10日に中間答申を行いました。

平成22年度は、残る13校の小中学校について、現地調査なども行い、地域条件等の違いにも配慮しながら適正化に向けた方策について審議を継続してきました。

今般、「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方について～教育都市きさらづの実現に向けて～（答申）」を取りまとめましたので、木更津市教育委員会へ答申します。

平成23年2月7日

木更津市立小中学校適正規模等審議会

会 長

I 本市における小中学校の規模等の現状

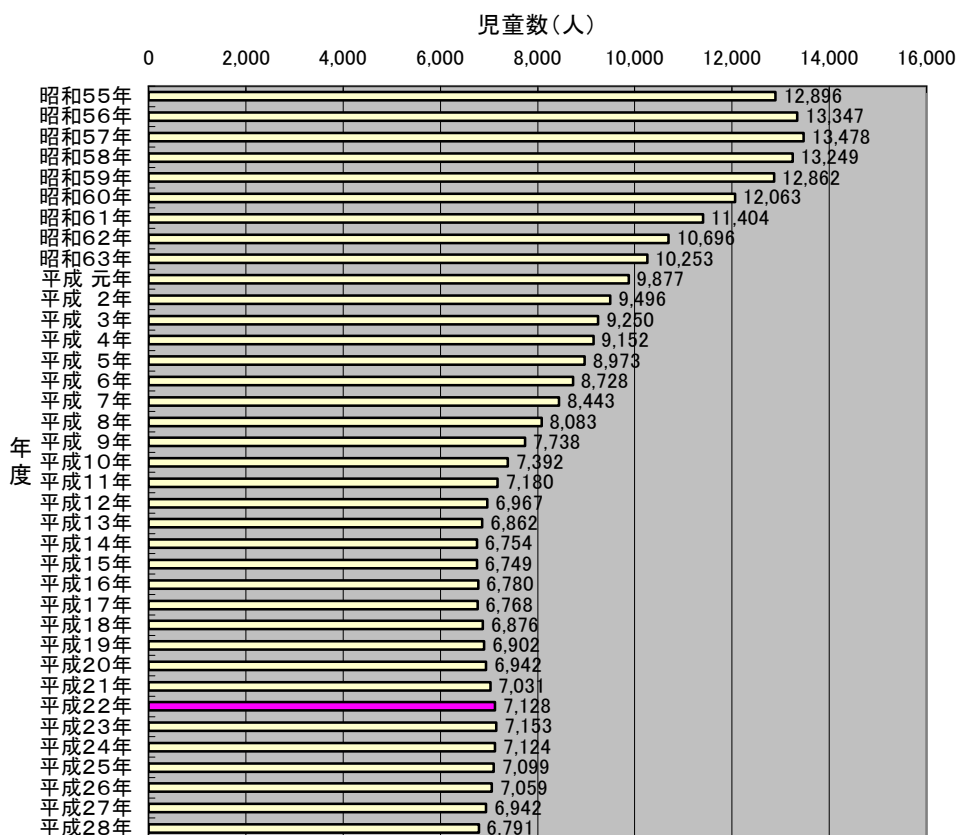
1 年度別児童・生徒数の推移

まず、木更津市の児童生徒数の推移をみると、児童数は昭和57年度の13,478人をピークに平成15年度まで減少を続け、平成15年度には6,749人で、ピーク時の50.1%となりました。その後微増を続け、平成22年度には7,128人で、平成15年度と比較して5.6%の増加となっています。生徒数は昭和60年度の6,967人をピークに平成20年度まで減少を続け、平成20年度には3,232人で、ピーク時の46.4%となりました。平成22年5月現在、3,395人で、平成20年度より163名増えています。

また、今後の児童生徒数の推移では、住民基本台帳によれば、平成28年度までをみると児童数はやや減少傾向、生徒数はやや増加傾向と予測されています。

ただし、今年度の就学前児童数（0歳から5歳）の推移をみると、5月1日現在6,791人でしたが、10月1日現在には6,837人となり、5か月で46人増加している状況ですので、児童数は今後増加傾向に転じることも考えられます。

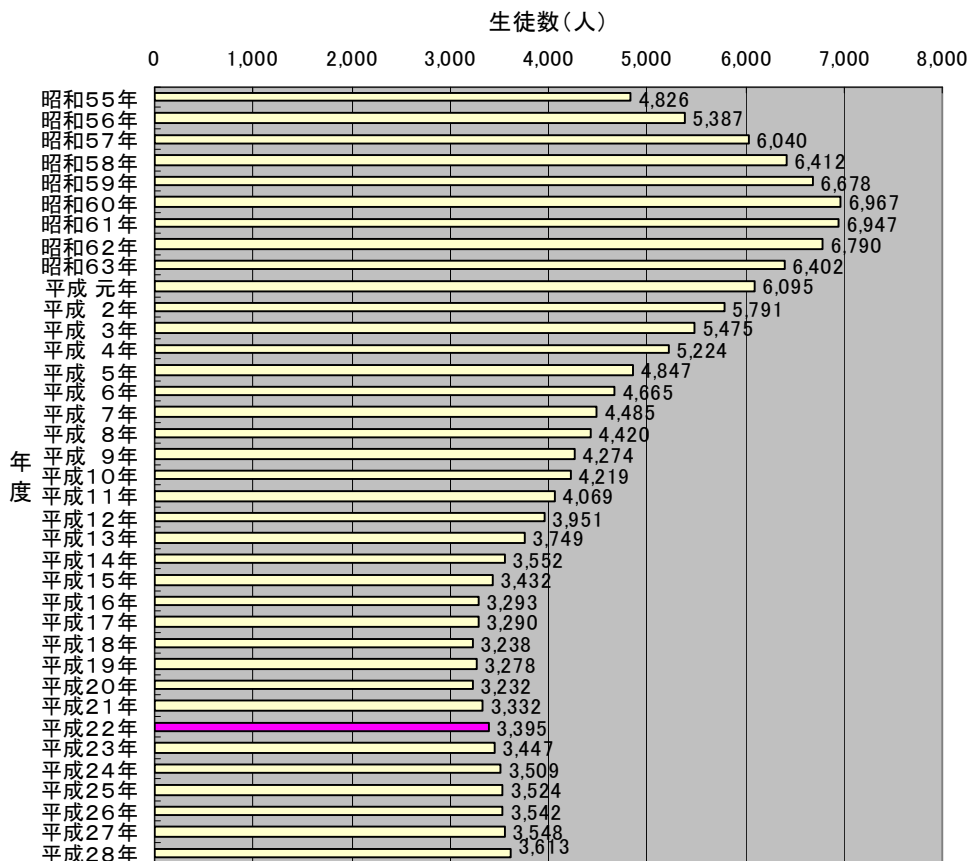
小学校児童数推移



※ 平成22年度までは各年5月1日現在の人数。

※ 平成23年度以降は住民基本台帳による推計。

中学校生徒数推移



- ※ 平成22年度までは各年5月1日現在の人数。
- ※ 平成23年度以降は住民基本台帳による推計。

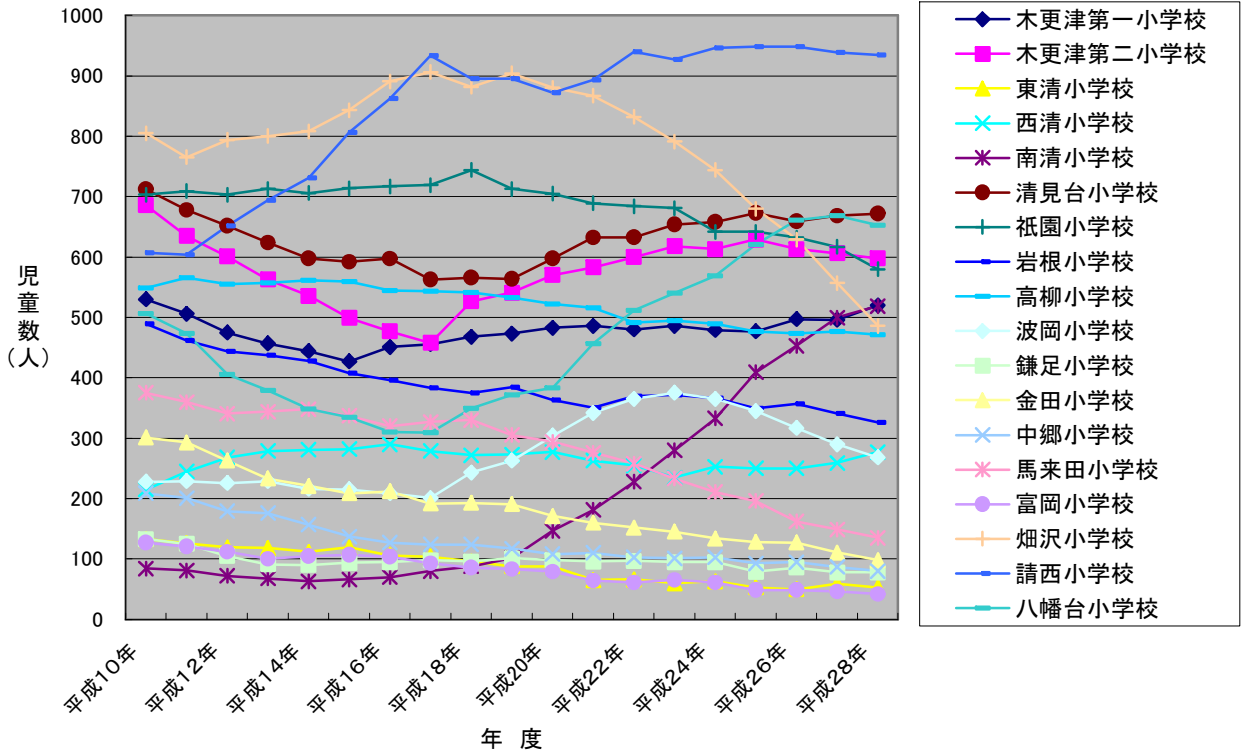
2 学校別児童・生徒数の推移

次に、学校別児童生徒数の推移をみると、新市街地が形成された人口急増地区の学校では児童生徒数の急増が見られるものの、市街地ではやや横ばいで、市街地・新市街地以外の学校では児童生徒数の減少傾向が見られます。

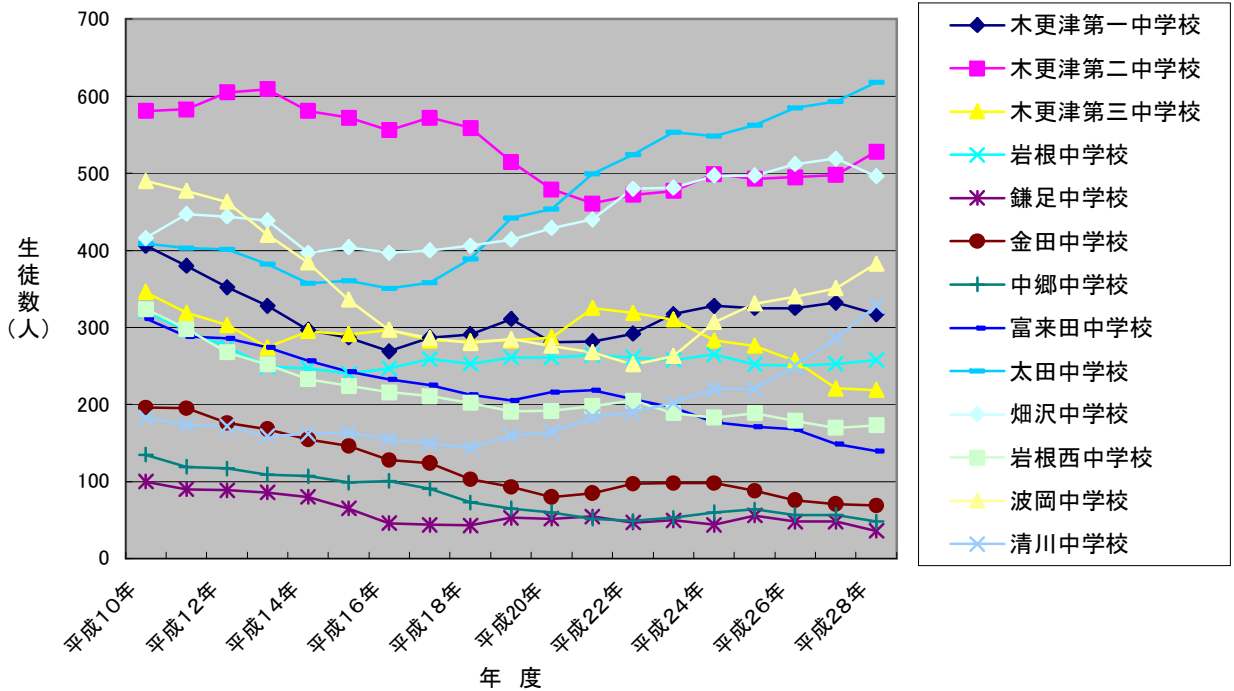
近年の人口急増地区としては、請西南地区、請西東地区、羽鳥野地区、ほたる野地区が挙げられ、これらの地区を学区に含む請西小学校、八幡台小学校、南清小学校の児童数は急激に増加しています。今後も、人口急増地区を抱える小学校の児童数は増加が予測され、これらの小学校の児童が進学する木更津第二中学校、太田中学校、波岡中学校、清川中学校の生徒数も増加する見込みです。

平成16年度には、児童生徒数が減少する学校がある一方で、宅地開発の進展により児童生徒数が増え、教室不足をきたす恐れのある学校があるといった学校間の不均衡に対応するため、「木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会」が設置され、平成18年4月1日から一部小中学校の通学区域の見直しが行われました。対象校は、木更津第二小学校、南清小学校、清見台小学校、波岡小学校、畑沢小学校、請西小学校、木更津第二中学校、太田中学校、清川中学校で、平成18年度以降の児童生徒数の推移に変化が見られる学校があるものの、請西小学校のように、通学区域を一部清見台小学校へ編入したにもかかわらず、児童数の減少がそれほどみられない学校もあります。

小学校別児童数推移



中学校別生徒数推移

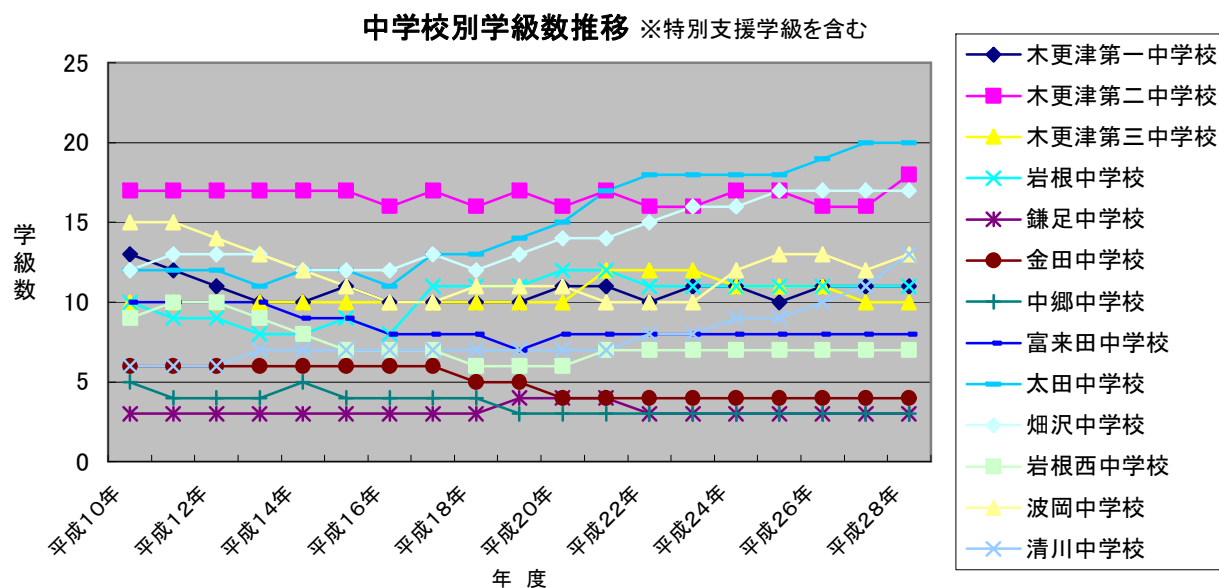
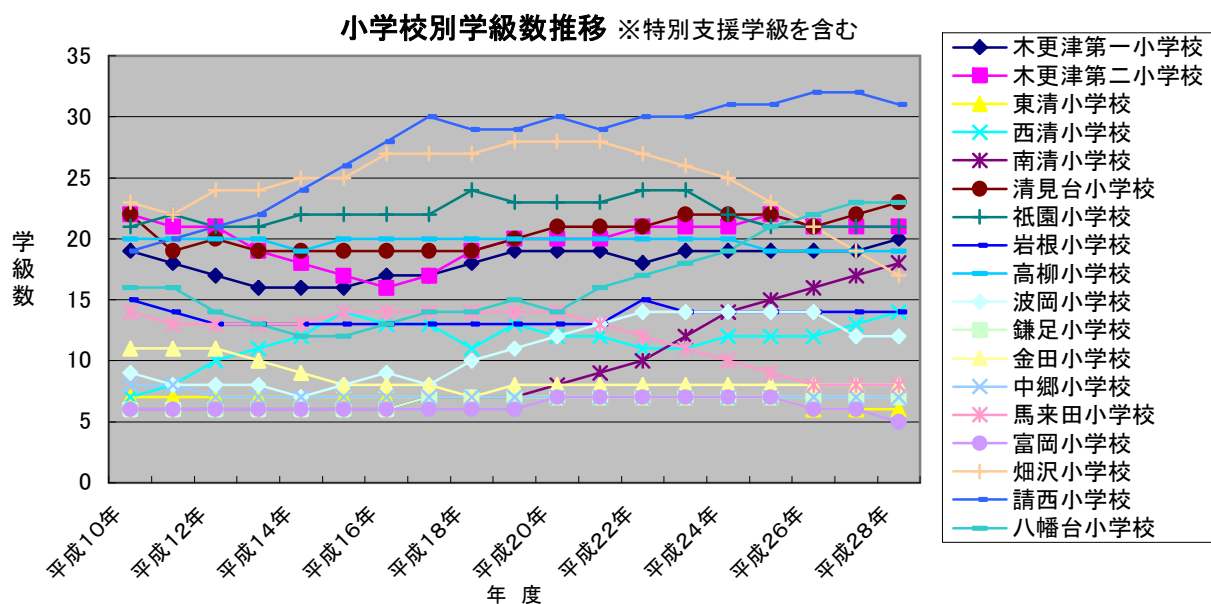


3 学校別学級数の推移

次に、木更津市立小中学校の学級数をみると、小学校はピーク時の昭和56年度・昭和57年度の356学級から平成22年度には276学級、中学校はピーク時の昭和61年度の178学級から平成22年度には125学級に減少しており、ピーク時と比較して小学校は77.5%、中学校は70.2%となっています。

小中学校における学級数は、児童生徒数の推移に概ね比例しており、児童生徒数の急増が予測される八幡台小学校や南清小学校、清川中学校は学級数も増加し、児童生徒数の著しい減少が予想される畑沢小学校や馬來田小学校は学級数も減少する見込みです。

今後の学級数の動向も、児童生徒数によって学校間に大きな差が生じるものと予測されます。



学校別児童数・学級数推移 ※平成22年度までは、各5月1日現在数値であり、平成23年度以降は、平成22年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

※学級数には特別支援学級を含み、平成23年度以降の特別支援学級数は、平成22年度と同数を算入

		S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
木一小	児童数	1,224	1,233	1,199	1,109	1,036	928	843	788	738	727	726	722	725	724	693	663	600	560
	学級数	35	34	33	32	31	27	26	24	23	23	24	24	25	24	24	23	22	21
木二小	児童数	1,109	1,051	1,088	1,047	1,040	973	963	913	892	889	831	824	782	786	762	767	733	730
	学級数	28	26	28	27	27	25	25	25	25	26	25	25	25	25	25	25	24	24
東清小	児童数	410	397	373	343	327	297	260	243	223	205	187	162	150	147	149	148	145	148
	学級数	12	12	11	11	11	9	8	8	7	7	6	6	6	6	6	7	7	7
西清小	児童数	566	580	547	537	573	489	477	456	403	403	382	371	355	339	303	285	250	239
	学級数	17	17	16	15	16	14	14	14	14	14	13	13	13	13	12	12	10	9
南清小	児童数	116	135	146	149	144	138	135	124	123	112	115	110	109	108	106	100	97	91
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
清見台小	児童数	1,411	1,336	1,310	1,201	1,180	1,107	1,051	984	921	857	796	799	842	828	786	776	760	753
	学級数	34	32	32	30	29	29	28	27	25	24	24	24	24	24	24	25	23	23
祇園小	児童数	1,543	1,583	1,575	1,503	1,380	1,262	1,157	1,036	984	907	865	825	832	797	766	736	761	718
	学級数	39	39	38	36	33	30	28	26	26	24	24	24	24	23	22	20	21	21
岩根小	児童数	1,135	1,102	1,066	1,036	970	917	867	818	778	749	722	697	676	632	616	599	546	511
	学級数	29	28	26	26	25	24	24	23	22	22	21	19	20	19	19	19	16	15
高柳小	児童数	1,381	1,351	1,291	1,239	1,158	1,111	1,049	991	947	894	826	755	711	702	687	642	615	575
	学級数	34	33	31	30	29	28	27	26	24	24	22	21	20	20	21	20	20	20
波岡小	児童数	923	885	956	1,001	991	898	809	709	627	547	448	405	371	354	316	284	274	243
	学級数	23	23	24	26	26	24	22	20	18	17	15	14	13	14	12	12	11	10
鎌足小	児童数	236	245	254	267	274	260	234	221	203	193	182	179	185	173	169	177	164	154
	学級数	7	8	9	8	9	9	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
金田小	児童数	452	445	449	462	443	416	407	382	375	372	377	390	389	391	381	370	364	334
	学級数	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
中郷小	児童数	272	266	269	281	271	270	266	263	259	263	269	274	263	266	265	239	223	209
	学級数	10	9	9	9	9	10	10	10	9	9	10	12	11	10	10	9	8	7
馬來田小	児童数	559	596	599	603	602	567	557	539	548	551	534	523	515	483	463	427	412	396
	学級数	16	17	18	18	18	17	16	16	17	18	18	18	17	16	15	14	14	15
富岡小	児童数	141	142	143	154	150	151	149	142	136	124	124	113	104	107	115	124	114	120
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
畑沢小	児童数	767	758	724	680	656	648	626	623	686	729	773	811	852	876	865	860	812	802
	学級数	19	20	19	18	18	18	18	18	19	21	21	23	25	25	25	24	24	24
請西小	児童数	651	902	978	1,040	1,052	1,014	955	871	840	798	752	698	657	646	632	602	591	581
	学級数	17	23	24	25	26	26	25	23	23	23	22	21	21	20	19	18	17	17
八幡台小	児童数		340	511	597	615	617	599	593	570	557	587	592	634	614	654	644	622	574
	学級数		10	13	17	17	16	16	17	17	16	18	19	18	18	20	20	19	18
小学校	児童数	12,896	13,347	13,478	13,249	12,862	12,063	11,404	10,696	10,253	9,877	9,496	9,250	9,152	8,973	8,728	8,443	8,083	7,738
	学級数	345	356	356	353	348	330	319	309	300	299	293	293	292	287	284	278	266	261

学校別児童数・学級数推移 ※平成22年度までは、各5月1日現在数値であり、平成23年度以降は、平成22年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

※学級数には特別支援学級を含み、平成23年度以降の特別支援学級数は、平成22年度と同数を算入

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
木一小	児童数	530	506	475	457	444	427	451	456	468	473	483	486	480	486	479	477	497	496	520
	学級数	19	18	17	16	16	16	17	17	18	19	19	19	18	19	19	19	19	19	19
木二小	児童数	686	635	601	563	536	499	477	458	527	541	570	583	600	618	613	629	613	606	598
	学級数	22	21	21	19	18	17	16	17	19	20	20	20	21	21	21	22	21	21	21
東清小	児童数	133	126	119	118	112	119	106	104	96	88	88	65	66	60	63	53	50	53	53
	学級数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6
西清小	児童数	215	245	268	279	281	282	290	279	272	273	277	263	255	235	253	250	250	259	277
	学級数	7	8	10	11	12	14	13	13	11	13	12	12	11	11	12	12	12	13	14
南清小	児童数	84	81	72	68	63	66	70	80	88	102	147	181	228	280	333	409	453	500	519
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	8	9	10	12	14	15	16	17	18
清見台小	児童数	712	678	652	624	598	592	597	563	566	564	598	632	633	654	658	673	659	668	672
	学級数	22	19	20	19	19	19	19	19	19	20	21	21	21	22	22	22	21	22	23
祇園小	児童数	703	709	703	713	706	714	717	719	744	713	705	689	684	681	642	642	632	617	580
	学級数	21	22	21	21	22	22	22	22	24	23	23	23	24	24	22	21	21	21	21
岩根小	児童数	489	462	444	437	428	408	396	383	375	384	363	351	370	372	366	350	357	341	326
	学級数	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	15	14	14	14	14	14	14
高柳小	児童数	549	566	555	557	562	559	545	543	541	533	522	516	492	495	489	477	474	477	471
	学級数	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19
波岡小	児童数	228	229	226	229	216	215	209	201	243	263	304	342	365	375	365	345	317	290	268
	学級数	9	8	8	8	7	8	9	8	10	11	12	13	14	14	14	14	14	12	12
鎌足小	児童数	133	125	105	91	90	94	95	98	96	101	98	96	97	95	95	79	86	78	78
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
金田小	児童数	301	293	263	233	221	209	212	192	193	191	171	160	152	145	134	128	127	111	98
	学級数	11	11	11	10	9	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
中郷小	児童数	209	201	179	176	157	137	127	124	124	117	108	110	103	101	103	93	95	87	80
	学級数	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
馬來田小	児童数	375	360	341	344	348	337	320	327	330	305	294	276	258	233	211	196	162	149	135
	学級数	14	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	13	12	11	10	9	8	8	8
富岡小	児童数	127	121	112	100	105	107	104	93	86	83	79	64	61	65	61	49	49	46	42
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	5
畑沢小	児童数	805	765	794	800	808	843	891	906	882	904	880	867	832	791	744	680	629	557	486
	学級数	23	22	24	24	25	25	27	27	27	28	28	28	27	26	25	23	21	19	17
請西小	児童数	607	604	652	694	731	806	863	933	895	895	872	893	940	927	946	948	948	939	935
	学級数	19	20	21	22	24	26	28	30	29	29	30	29	30	30	31	31	32	32	31
八幡台小	児童数	506	474	406	379	348	335	310	309	350	372	383	457	512	540	569	621	661	668	653
	学級数	16	16	14	13	12	12	13	14	14	15	14	16	17	18	19	21	22	23	23
小学校	児童数	7,392	7,180	6,967	6,862	6,754	6,749	6,780	6,768	6,876	6,902	6,942	7,031	7,128	7,153	7,124	7,099	7,059	6,942	6,791
	学級数	251	245	245	241	241	246	251	256	259	267	270	272	276	277	278	277	274	274	274

学校別生徒数・学級数推移 ※平成22年度までは、各5月1日現在数値であり、平成23年度以降は、平成22年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

※学級数には特別支援学級を含み、平成23年度以降の特別支援学級数は、平成22年度と同数を算入

		S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
木一中	生徒数	567	631	731	749	748	760	684	666	597	563	534	487	480	457	460	446	423	409
	学級数	16	17	19	19	19	19	18	17	16	15	16	15	14	14	14	13	13	13
木二中	生徒数	727	652	773	895	978	1,051	1,057	1,044	1,001	924	894	832	787	706	689	668	652	611
	学級数	18	16	20	22	24	25	25	25	24	24	23	23	22	20	19	19	19	18
木三中	生徒数	970	1,002	1,047	1,073	1,104	832	670	644	582	527	471	447	395	363	353	355	358	337
	学級数	24	24	25	26	27	21	17	17	15	14	13	13	12	11	11	11	11	10
岩根中	生徒数	888	994	748	637	631	650	621	602	569	549	502	487	450	407	358	357	347	343
	学級数	22	24	19	16	17	17	16	16	16	16	14	15	14	13	11	11	11	11
鎌足中	生徒数	93	96	121	110	114	122	146	146	147	129	135	115	104	85	87	84	92	87
	学級数	3	3	3	3	3	4	5	5	5	4	5	4	4	3	3	3	3	3
金田中	生徒数	183	195	227	226	217	226	230	230	223	235	220	204	194	184	186	188	192	203
	学級数	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
中郷中	生徒数	129	128	134	126	132	135	147	141	141	139	143	139	138	130	129	135	150	154
	学級数	5	5	5	4	4	5	6	5	5	5	6	6	6	5	5	5	6	6
富来田中	生徒数	279	308	342	346	369	393	410	412	378	393	381	390	356	350	349	347	340	324
	学級数	8	9	10	10	10	11	11	11	10	12	12	12	11	10	10	10	10	10
太田中	生徒数	606	648	667	693	725	757	731	718	696	647	612	558	569	526	498	448	434	415
	学級数	15	16	17	16	17	18	18	18	17	17	16	15	16	15	14	13	12	12
畑沢中	生徒数	384	733	894	625	413	406	377	380	351	369	357	374	383	389	395	390	419	408
	学級数	9	18	22	16	11	10	10	10	9	10	10	11	12	12	12	11	12	12
岩根西中	生徒数			356	519	547	518	530	487	485	455	429	389	372	345	323	313	314	324
	学級数			9	13	14	13	13	12	12	12	12	11	11	9	9	9	9	9
波岡中	生徒数				413	700	791	874	871	835	804	781	738	706	630	585	527	489	465
	学級数				10	17	19	21	21	20	20	20	20	19	17	16	14	13	13
清川中	生徒数						326	470	449	397	361	332	315	290	275	253	227	210	194
	学級数						8	12	12	11	10	9	9	9	9	8	7	6	6
中学校	生徒数	4,826	5,387	6,040	6,412	6,678	6,967	6,947	6,790	6,402	6,095	5,791	5,475	5,224	4,847	4,665	4,485	4,420	4,274
	学級数	125	137	155	161	169	176	178	175	166	165	162	160	156	144	138	132	131	129

学校別生徒数・学級数推移 ※平成22年度までは、各5月1日現在数値であり、平成23年度以降は、平成22年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値

※学級数には特別支援学級を含み、平成23年度以降の特別支援学級数は、平成22年度と同数を算入

		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
木一中	生徒数	406	380	352	328	297	287	269	287	291	311	281	282	292	317	328	325	325	332	317
	学級数	13	12	11	10	10	11	10	10	10	10	11	11	10	11	11	10	11	11	11
木二中	生徒数	581	583	605	609	581	572	556	572	559	515	479	461	472	477	499	493	495	498	528
	学級数	17	17	17	17	17	17	16	17	16	17	16	17	16	16	17	17	16	16	18
木三中	生徒数	346	319	303	274	295	291	297	283	282	283	287	325	319	310	283	276	257	221	219
	学級数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	12	12	12	11	11	11	10	10
岩根中	生徒数	321	296	275	249	247	240	247	259	253	261	261	264	261	258	265	252	250	253	258
	学級数	10	9	9	8	8	9	8	11	11	11	12	12	11	11	11	11	11	11	11
鎌足中	生徒数	100	90	89	86	80	65	46	44	43	53	52	55	47	50	44	56	48	48	36
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3
金田中	生徒数	196	195	176	168	155	146	128	124	103	93	80	85	97	98	98	88	76	71	69
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4
中郷中	生徒数	135	119	117	109	107	99	101	91	73	65	60	52	49	53	60	64	57	57	48
	学級数	5	4	4	4	5	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
富来田中	生徒数	312	288	286	274	257	243	233	225	213	205	216	219	207	196	177	171	168	149	140
	学級数	10	10	10	10	9	9	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8
太田中	生徒数	409	403	401	382	357	361	351	358	389	442	454	499	524	553	548	562	585	593	618
	学級数	12	12	12	11	12	12	11	13	13	14	15	17	18	18	18	18	19	20	20
畑沢中	生徒数	416	447	444	439	397	404	397	400	406	414	429	440	480	481	497	497	512	519	496
	学級数	12	13	13	13	12	12	12	13	12	13	14	14	15	16	16	17	17	17	17
岩根西中	生徒数	324	298	268	252	233	224	216	211	202	191	192	198	205	189	183	189	179	170	173
	学級数	9	10	10	9	8	7	7	7	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7
波岡中	生徒数	490	477	463	420	384	336	297	286	280	285	276	268	252	263	307	331	340	351	383
	学級数	15	15	14	13	12	11	10	10	11	11	11	10	10	10	12	13	13	12	13
清川中	生徒数	183	174	172	159	162	164	155	150	144	160	165	184	190	202	220	220	250	286	328
	学級数	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	9	9	10	11	13
中学校	生徒数	4,219	4,069	3,951	3,749	3,552	3,432	3,293	3,290	3,238	3,278	3,232	3,332	3,395	3,447	3,509	3,524	3,542	3,548	3,613
	学級数	128	127	125	121	119	118	112	119	116	118	121	126	125	127	130	131	133	133	138

4 学校別規模、施設、配置等の現状

次に、本市における小中学校の適正規模・適正配置を審議するため、各校の個別の現状と課題を以下のとおり整理しました。

なお、児童生徒数は、平成22年度は5月1日現在の数値であり、平成23年度以降は、平成22年5月1日現在の住民基本台帳からの推計値です。

また、学級数の（ ）内は特別支援学級数で、内数で記載してあります。23年度以降の特別支援学級数は、22年度と同数としています。

《小学校18校》

①木更津第一小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	480	486	479	477	497	496	520	
	学級数	18 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	20 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	H21	不要		23		5			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	学年室、多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分な運動場が確保できない。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・やや増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学区全域は中心市街地を形成している。 ・高速バス等交通の利便性向上に伴い勤労世帯が増加している。 ・平成21年度校舎を改築。 							

②木更津第二小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	600	618	613	629	613	606	598	
	学級数	21 (2)	21 (2)	21 (2)	22 (2)	21 (2)	21 (2)	21 (2)	21 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S45・46・47・51	実施済		25		4			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	算数教室兼児童会室、日本語指導教室、多目的室、図書室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学区は市街地に隣接し、商業・準工業地及び住宅地としての様相を呈している。 ・学区には国道幹線及びバイパス道路があり、交通量が極めて多い。 ・地域によっては、交通機関（バス）を利用する児童もある。 							

③東清小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
児童数・学級数の推移	児童数	66	60	63	53	50	53	53	53			
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)			
施設関係	建設年度	S41・52・56		耐震工事	未実施		就学可能学級数	9		余裕教室数	2	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況											
	会議室、多目的室											
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。										
	2 敷地面積は十分か	・十分である。										
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。										
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。										
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。										
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。										
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・道路網の整備に伴い、学区の交通量が増加している。 ・東清団地造成・市営住宅建設により人口が急増した時期を経て、現在児童数の減少が進み、ピーク時の16%近くになっている。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。 ・26年度から複式学級となる可能性がある。 ※は弾力的運用による学級数。										

④西清小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
児童数・学級数の推移	児童数	255	235	253	250	250	259	277				
	学級数	11 (2)	11 (2)	12 (2)	12 (2)	12 (2)	13 (2)	14 (2)				
施設関係	建設年度	S43・44		耐震工事	実施済		就学可能学級数	15		余裕教室数	4	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況											
	特別活動室、少人数教室、資料室、学年室											
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。										
	2 敷地面積は十分か	・狭隘のため、体育館の上にプールを設置しても十分な運動場が確保できない。										
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。										
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。										
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。										
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。										
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学区には国道16号線バイパス道路と旧道が並行して走り、交通量が多い。 ・近年は賃貸住宅や分譲住宅が増えつつある。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。 										

⑤南清小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移		児童数	228	280	333	409	453	500	519
		学級数	10 (1)	12 (1)	14 (1)	15 (1)	16 (1)	17 (1)	18 (1)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
		S42・43・ 60・H19	未実施		9	0			
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・22年度は特別教室の転用により対応し、23年度以降28年度までは仮設校舎及び新校舎により足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。特別教室が不足している。							
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。（5km以内）							
	5 将来的な児童数の展望は	・急激な増加が予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の一部が主要道路によって分断されている。 ・ほたる野地区の人口が急増している。 ・児童数の急増に伴い、平成19年度に3教室を増設した。 ・平成23、24年度に仮設校舎5教室を確保する。 ・平成24年度末に新校舎が完成し、平成25年度から使用予定である。 							

⑥清見台小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
児童数・学級数の推移		児童数	633	654	658	673	659	668	672	
		学級数	21 (2)	22 (2)	22 (2)	22 (2)	21 (2)	22 (2)	23 (2)	
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数				
		S45・46・ 56	実施済		30	9				
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
		研修室、PTA室、教材室、国際理解室兼児童会室、資料室、学年活動室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。								
	2 敷地面積は十分か	・十分である。								
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。								
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。								
	5 将来的な児童数の展望は	・増加傾向と予想される。								
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。								
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地と商業地が一体化した地域であり、教育施設も多くみられる。 ・人口の流動が多い地域である。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。 								

⑦ 祇園小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	684	681	642	642	632	617	580
	学級数	24 (3)	24 (3)	22 (3)	21 (3)	21 (3)	21 (3)	21 (3)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S49・50・ 53・56	実施中		34	10			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	特別活動室、会議室、ランチルーム、生活科ルーム、多目的室、国際交流室、少人数指導室、低学年図書室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや東部に位置している。						
	7 その他	・学区の大部分が宅地造成地であり、戸建住宅・社宅とも多い。						

⑧ 岩根小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	370	372	366	350	357	341	326
	学級数	15 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S42・43・ 53	実施済		29	14			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	少人数指導教室、歴史資料室、特別活動室、PTA室、ボランティア室、教材室、用具・備品庫							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の東端に位置している。						
	7 その他	・JR内房線の西側の旧市街地である。 ・運動場に借用地がある。						

⑨高柳小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	492	495	489	477	474	477	471
	学級数	20 (2)	20 (2)	20 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)	19 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S46・48・ 53・55	実施中		33	13			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	少人数指導・学年集会室、研修室、PTA室、会議室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。						
	7 その他	・JR内房線の東側の旧市街地である。						

⑩波岡小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	365	375	365	345	317	290	268
	学級数	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	14 (2)	12 (2)	12 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S35・40・ 48・54	実施済		16	2			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	特別活動室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。						
	7 その他	・昭和40年代からの大久保・八幡台など相次ぐ宅地造成により急速に宅地化が進行した。 ・通学区域見直しにより、平成18年度から畑沢4丁目・港南台1・2・5丁目波岡小学区となった。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。						

⑪鎌足小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	97	95	95	79	86	78	78	
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S43・49・63	未実施		7		0			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・敷地形状により、十分な運動場が確保できない。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。（5km以内）							
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや北西部に位置している。							
	7 その他	・旧鎌足村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも児童数の増は見込めない状況である。							

⑫金田小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	152	145	134	128	127	111	98	
	学級数	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S3・40・41	実施中		13		5			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
児童会室、少人数指導ルーム、多目的室									
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。							
	7 その他	・旧金田村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・東京湾アクアラインの接岸地であり、観光業の発展がみられる。 ・児童数は減少傾向にあるものの、現在、土地区画整理事業が施行されており、今後人口増加の可能性のある地域である。							

⑬中郷小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	103	101	103	93	95	87	80
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S43・44	未実施		9	2			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	児童会室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分な運動場が確保できない。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・旧中郷村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも児童数の増は見込めない状況である。 ・館山自動車道、アクアライン連絡道の開通により通学路に大きな影響を及ぼしている。 ・建物敷地に借用地がある。 						

⑭馬来田小学校								
児童数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	児童数	258	233	211	196	162	149	135
	学級数	12 (2)	11 (2)	10 (2)	9 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S46・55・H4	実施中		13	1			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	特別活動室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。（7km以内）						
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや西部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学区は市東部に位置し、北西部は袖ヶ浦市、東部は市原市、南部は君津市と隣接している。 ・学区が広範囲のため、山間地の児童は自転車通学である。 ・学校前の県道は交通量が多い。 						

⑮富岡小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数		61	65	61	49	49	46	42
	学級数		※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※7 (1)	※6 (1)
施設関係	建設年度	S50・57		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
				未実施		7		0	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・一部片道4kmを超える地域がある。（5.5km以内）							
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。							
	7 その他	・学区は市東部に位置し、袖ヶ浦市・君津市と隣接している。 ・圏央道インターチェンジ開通に伴い、交通量が増加している。 ・農業に従事している住民が多く、人口増は見込み難い地域である。 ・22年度から27年度までは弾力的運用で複式学級を解消することができるが、28年度には解消できなくなる可能性がある。 ※は弾力的運用による学級数。							

⑯畑沢小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数		832	791	744	680	629	557	486
	学級数		27 (2)	26 (2)	25 (2)	23 (2)	21 (2)	19 (2)	17 (2)
施設関係	建設年度	S53・54・H3		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
				未実施		28		1	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
少人数教室									
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・急激な減少が予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南部に位置している。							
	7 その他	・学区は市南西部に位置し、君津市と隣接している。 ・畑沢土地区画整理事業の宅地造成に伴い、昭和53年4月に波岡小学校から分離し創設された。							

⑰請西小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	940	927	946	948	948	939	935	
	学級数	30 (2)	30 (2)	31 (2)	31 (2)	32 (2)	32 (2)	31 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S54・56・ H2・14	未実施		32		2			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	多目的室、研修室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北端に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・児童増に伴い、木更津第二小学校から請西と真舟地区が、清見台小学校から太田地区が分離し、創設された。 ・児童の急増に伴い、平成14年度に8教室を増設した。 ・社会増により児童数が急増すると、28年度以前に教室が不足する可能性がある。 							

⑱八幡台小学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
児童数・学級数の推移	児童数	512	540	569	621	661	668	653	
	学級数	17 (2)	18 (2)	19 (2)	21 (2)	22 (2)	23 (2)	23 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S56・57・ 59	未実施		18		1			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・23年度以降28年度までは増設により足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5km以内である。							
	5 将来的な児童数の展望は	・増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の西部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・羽鳥野地区の人口が急増している。 ・学区内は急な坂道や細い道路が多い。 ・通勤時間帯の交通量が増加している。 ・平成22年度に6教室を増設中である。 							

《中学校13校》

①木更津第一中学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	292	317	328	325	325	332	317	
	学級数	10 (1)	11 (1)	11 (1)	10 (1)	11 (1)	11 (1)	11 (1)	11 (1)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S43・44	実施済		17		7			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	教育相談室、教材室、特別活動室、進路資料・指導室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール、武道場有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の中心部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は、木更津第一小学校学区と西清小学校の一部学区である。 ・昭和56年度の学区再編により、朝日2・3丁目、長須賀が学区に編入された。							

②木更津第二中学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	472	477	499	493	495	498	528	
	学級数	16 (2)	16 (2)	17 (2)	17 (2)	16 (2)	16 (2)	18 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数			
	S47・48・50・58	未実施		19		3			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	特別活動室、進路指導室、多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・敷地形状により十分な運動場が確保できない。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は、木更津第二小学校学区と請西小学校の一部学区である。 ・学校のすぐ下を国道16号線が通っており、おびただしい交通量である。 ・生徒の急増に伴い、昭和58年度に6教室を増設したが、老朽化が進み、教室として使用するためには改修が必要である。							

③木更津第三中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生徒数	319	310	283	276	257	221	219
	学級数	12 (2)	12 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	10 (2)	10 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S46・47・48	実施中		18	6			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	展示室、社会科教室、学習室、会議室、更衣室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5 km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。						
	7 その他	・通学区域は、西清小学校の一部学区と祇園小学校の一部学区である。 ・22年度に校舎を全面改築中であり、改築後の就学可能学級数は14学級である。						

④岩根中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生徒数	261	258	265	252	250	253	258
	学級数	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)	11 (2)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S46・47・48・51	未実施		19	8			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	生徒会室、資料室、PTA室、倉庫、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5 km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。						
	7 その他	・通学区域は高柳小学校学区であり、JR内房線の東側の旧市街地である。						

⑤鎌足中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生徒数	47	50	44	56	48	48	36
	学級数	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S60	不要		4	1			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4.5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は鎌足小学校学区である。 ・旧鎌足村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも生徒数の増は見込めない状況である。 						

⑥金田中学校								
生徒数・学級数の推移	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生徒数	97	98	98	88	76	71	69
	学級数	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
	S41	未実施		5	1			
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	会議室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。						
	2 敷地面積は十分か	・十分である。						
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。						
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3.5km以内である。						
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。						
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。						
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は金田小学校学区である。 ・旧金田村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・生徒数は減少傾向にあるものの、現在、土地区画整理事業が施行されており、今後人口増加の可能性のある地域である。 						

⑦中郷中学校									
		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移		生徒数	49	53	60	64	57	57	48
		学級数	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数		
		S41・43・50・H8	未実施		4		1		
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
		多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分であるが、運動場は道路を挟んだ反対側に位置している。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道5km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや東部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は中郷小学校学区である。 ・旧中郷村地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも生徒数の増は見込めない状況である。 							

⑧富来田中学校									
		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移		生徒数	207	196	177	171	168	149	140
		学級数	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数		
		S48	未実施		11		3		
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
		数学室、国際理解室、多目的室							
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール、武道場有り。							
	4 通学距離は適当か	・一部片道6kmを超える地域がある。（10km前後）							
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は、馬來田小学校学区と富岡小学校学区である。 ・旧富来田町地区であり、地域の繋がりの強い地区である。 ・市内で最も学区が広く、市原市・袖ヶ浦市・君津市に隣接している。 							

⑨太田中学校									
生徒数・学級数の推移		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		生徒数	524	553	548	562	585	593	618
		学級数	18 (2)	18 (2)	18 (2)	18 (2)	19 (2)	20 (2)	20 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
		S52・55・63	未実施		17	0			
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
現状と課題	1 教室は足りているか	・22年度は特別教室の転用により対応し、23年度以降28年度までは増設により足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は、清見台小学校学区と請西小学校の一部学区である。 ・請西東地区の人口が急増している。 ・平成22年度に3教室を増設中である。 							

⑩畑沢中学校									
生徒数・学級数の推移		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		生徒数	480	481	497	497	512	519	496
		学級数	15 (2)	16 (2)	16 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)	17 (2)
施設関係		建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数			
		S55・56・59	未実施		17	2			
		余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							特別活動室、大会議室
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道2.5km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の東部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は、畑沢小学校学区と波岡小学校の一部学区である。 ・市南西部に位置し、君津市に隣接している。 							

⑪岩根西中学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	205	189	183	189	179	170	173	
	学級数	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)	7 (1)
施設関係	建設年度	S57		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
		S57		不要		11		4	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	特別活動室、学年学習室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道3km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は岩根小学校学区であり、JR内房線の西側の旧市街地である。 ・建物敷地と運動場に借用地がある。							

⑫波岡中学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移	生徒数	252	263	307	331	340	351	383	
	学級数	10 (2)	10 (2)	12 (2)	13 (2)	13 (2)	12 (2)	13 (2)	
施設関係	建設年度	S58		耐震工事		就学可能学級数		余裕教室数	
		S58		不要		18		8	
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	特別活動室、進路資料・指導室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道4km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・急激な増加が予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の南西部に位置している。							
	7 その他	・通学区域は、波岡小学校の一部学区と八幡台小学校学区である。 ・大久保地区、八幡台地区といった宅地造成地を有する地域である。 ・羽鳥野地区の人口が急増している。							

⑬清川中学校		年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生徒数・学級数の推移	児童数	190	202	220	220	250	286	328	
	学級数	8 (2)	8 (2)	9 (2)	9 (2)	10 (2)	11 (2)	13 (2)	
施設関係	建設年度	耐震工事		就学可能学級数	余裕教室数				
	S60	不要		13	5				
	余裕教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況								
	特別活動室、生徒会室、多目的室								
現状と課題	1 教室は足りているか	・28年度までは足りる見込みである。							
	2 敷地面積は十分か	・十分である。							
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。							
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道6km以内である。							
	5 将来的な生徒数の展望は	・急激な増加が予想される。							
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。							
	7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域は、祇園小学校の一部学区、東清小学校学区、南清小学校学区である。 ・生徒増のため、昭和60年度に木更津第三中学校から分離開校した。 ・ほたる野地区の人口が急増している。 							

Ⅱ 本市における小中学校の適正規模

1 本市の小中学校の適正規模の基本的な考え方

(1) 本市の学校規模の現状

学校の規模について、国は学校教育法施行規則で12学級以上18学級以下（特別支援学級を除く）を標準としています。そこで、この標準に対し本市の小中学校の規模がどのような状況であるかを確認しました。

小学校は18校のうち標準にあたる学校が5校、標準を下回る学校が8校、標準を上回る学校が5校となり、中学校は13校のうち標準にあたる学校が3校、標準を下回る学校が10校、標準を上回る学校はないという結果で、小中学校ともに標準を下回る学校が非常に多い状況であることが判りました。

学校規模	小学校	学級数	中学校	学級数
標準を下回る (11学級以下)	東清小学校	6	木更津第一中学校	9
	西清小学校	9	木更津第三中学校	10
	南清小学校	9	岩根中学校	9
	鎌足小学校	6	鎌足中学校	3
	金田小学校	6	金田中学校	3
	中郷小学校	6	中郷中学校	3
	馬來田小学校	10	富来田中学校	6
	富岡小学校	6	岩根西中学校	6
			波岡中学校	8
			清川中学校	6
標準 (12学級以上18学級以下)	木更津第一小学校	16	木更津第二中学校	14
	岩根小学校	13	太田中学校	16
	高柳小学校	18	畑沢中学校	13
	波岡小学校	12		
	八幡台小学校	15		
標準を上回る (19学级以上)	木更津第二小学校	19		
	清見台小学校	19		
	祇園小学校	21		
	畑沢小学校	25		
	請西小学校	28		

※学級数には特別支援学級を含まない

(2) 適正規模の基本的な考え方

次に、適正規模を検討するにあたっては、教育環境、指導体制、学校運営の面から、以下の考え方を基本とすることとしました。

① 教育環境（生活面）

- ・多様な価値観を持つ仲間と触れ合える規模であること。
- ・人間関係が固定化されることのない規模であること。

- ・教員と児童生徒との関わりが十分に保たれる規模であること。
- ・集団における連帯感が希薄にならない規模であること。

② 指導体制（教育活動面）

- ・多様な学習・指導形態を取ることのできる規模であること。
- ・教員が児童生徒一人ひとりの特性を把握できる規模であること。
- ・施設、設備を有効に活用できる規模であること。

③ 学校運営（教職員の組織）

- ・教員が互いに指導方法等を相談・研究できる規模であること。
- ・教職員が学校の教育目標や諸課題を共通理解できる規模であること。
- ・学年運営を効果的に進めることができる規模であること。

2 小規模校・大規模校のメリット・デメリット

前述の1（2）適正規模の基本的な考え方を踏まえ、小規模校と大規模校における一般的なメリットとデメリットを以下のとおりまとめました。

項目	小規模校のメリット (逆が大規模校のデメリット)	小規模校のデメリット (逆が大規模校のメリット)
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒同士の信頼関係が深まる。 ・児童生徒一人ひとりの個性を把握しやすい。 ・教職員と保護者との人間関係が密接になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交友関係が固定化され、新たな人間関係による社会性が育ちにくい。 ・良い意味での競争心が育ちにくく切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・活気が乏しくなりやすい。 ・いじめ等の問題が解消しにくい。
教育活動面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒への指導が徹底しやすい。 ・施設整備の使用が容易である。 ・学校、学年行事等での活動の場が増える。 ・落ち着いた雰囲気の中で活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができない。 ・希望するクラブ活動や部活動が制限される。 ・運動会（体育祭）、遠足等で、児童生徒の主体性を育むための多様な活動計画が組みにくい。
教職員の組織	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の連絡調整が図りやすく、学校教育目標や教育活動に一貫性を持たせやすい。 ・教職員相互の連携が密になる。 ・業務と責任が明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で多くの校務分掌を抱えることになり、業務処理に追われる。 ・教科数を満たす教員数の確保が難しい。 ・教師間の創意工夫に限りがある。 ・教材研究等で教員相互の連携がとりにくい。

3 本市における小中学校の適正規模

本市の学校規模の現状を踏まえ、適正規模の基本的な考え方に基づき、小規模校・大規模校のメリット・デメリットを検証したうえで、子どもたちにとって望ましい学校規模を検討した結果、集団生活を通じて、一人ひとりの個性を生かしながら、多様な人間関係の中で切磋琢磨して、豊かな人間性や社会性、思いやりの心を育てる教育を進めていくことのできる規模が望ましく、これが適正規模につながるものと考えられます。

このことから、小学校においてはクラス替えが可能で、運動会等学校行事で適度な活性化が図れる規模を適正と考えます。

中学校においては、教員が専門の教科を担当して指導にあたることから、充実した教科経営や指導が可能となるよう、同じ教科を担当する教員を複数配置することができ、また部活動等の課外活動がある程度維持できる規模を適正規模として、本市における小中学校の適正規模を以下のとおりとしました。

《本市における小中学校の適正規模》

小学校：12学級から18学級（1学年2学級から3学級）

中学校：12学級から18学級（1学年4学級から6学級）

Ⅲ 本市における小中学校の適正配置のあり方

1 適正配置に向けての基本的な考え方

本市における小中学校の配置の適正化を検討するにあたっては、様々な視点がありますが、以下の考え方を基本とすることとしました。

- ① 適正規模を確保すること
 - ・適正規模を下回る学校（以下「小規模校」という。）・適正規模を上回る学校（以下「大規模校」という。）の解消を目指す。
- ② 地域特性に配慮すること
 - ・地域とのつながりに最大限配慮する。
 - ・学校と地域社会との関わりを大切にする。
- ③ 児童生徒数の将来推計を考慮すること
 - ・現状だけでなく、将来の児童生徒数の展望を見据えた検討を行う。
- ④ 通学距離を考慮すること
 - ・児童生徒にとって著しい負担にならないよう配慮する。
(小学校は概ね4キロメートル以内、中学校は概ね6キロメートル以内を目安とする。)
- ⑤ 通学の安全性を確保すること
 - ・児童生徒の通学状況を把握し、安全性が保たれるよう配慮する。
- ⑥ 施設の現状を考慮すること
 - ・校舎や運動場の広さなど、学校施設の状況を把握する。
- ⑦ 指導体制をはじめとする学校教育環境を考慮すること
 - ・多様な人間関係を育むことができる学校規模を考慮する。
 - ・学校行事やクラブ活動等、様々な活動ができる教育環境を整える。
 - ・小中学校間の連携のあり方を考慮する。

上記の7項目のほか、小学校と中学校との関わりに配慮し、子どもたちが中学校へ進学するときには、複数の中学校へ分かれることなく「一つの小学校から一つの中学校へ」進学することが望ましいということを重要視し、本市における小中学校の適正配置のあり方を検討しました。

なお、具体的な審議においては、本市の財政状況を考慮するという観点から、まずは既存施設の有効活用を基本としました。

2 適正配置に向けての学校規模別の方策

小中学校の配置を適正化するための方策としては、「通学区域の変更」、「学校の統廃合」、「学校の新設・移転」が考えられます。

そこで、本市における小中学校の適正規模に照らし、学校規模別に適正配置に向けての方策を次のとおり整理しました。

なお、本市は6か所の学校予定地を有することから、「学校の新設・移転」については、これらの学校予定地の活用を視野に入れて審議することとしました。

① 小規模校に対する方策

小規模校の適正配置については、適正規模化に向けて、隣接する学校との通学区域の変更や、児童生徒数の将来推計によっては隣接校との統廃合あるいは学校予定地等への移転といった方策が考えられます。

② 大規模校に対する方策

大規模校の適正配置については、適正規模化に向けて、隣接する学校との通学区域の変更や、学校予定地等への新設・移転といった方策が考えられます。

③ 適正規模校に対する方策

現在適正規模の学校であっても、将来の児童生徒数の展望などを見据えて、適正配置を検討する必要があります。児童生徒数の将来推計によっては、通学区域の変更などの方策が考えられます。

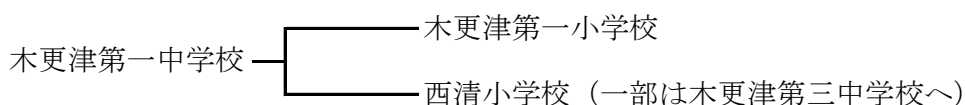
3 適正配置に向けての学校ごとの方策

それぞれの学校の規模を念頭に置きながら、適正配置に向けての基本的な考え方にに基づき、学校ごとに検討した結果は、以下のとおりです。

また、6か所の学校予定地についても審議すべき事項として挙げられていますので、これらの活用の可能性についても併せて審議しました。

(1) 学校ごとの方策

① 木更津第一中学校区について



■木更津第一中学校

木更津第一中学校は、現在9学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、やや増加傾向と予測されるものの、小規模校のまま推移する見込みです。

しかし、各学年ともに数名の転入により学級が増え、適正規模になる可能性がある学校です。

学校は、学区の中心部に位置していて、通学に問題はなく、学区と地域コミュニティーとの整合もとれています。

以上のことから、木更津第一中学校については、現状維持としてやむを得ないものと考えます。

●木更津第一小学校

木更津第一小学校は、現在16学級の適正規模校です。今後の児童数の推移をみると、やや増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移するものと見込まれます。通学距離や通学の安全性に問題はないといえます。

平成21年度に校舎を改築したものの、100メートルの直線及び200メートルトラックが確保できないといった課題はありますが、極端に狭小ではないことか

ら、木更津第一小学校については、現状維持としてやむを得ないものと考えます。

●西清小学校

西清小学校は現在9学級の小規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予想されますが、平成28年度には12学級で適正規模になる見込みです。

しかし、敷地が狭隘であることに加え、建物敷地と運動場に借用地があることも課題となっています。

また、児童が木更津第一中学校と木更津第三中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況です。

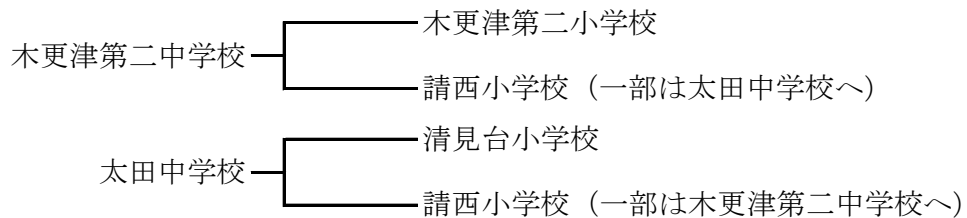
そこで、現状でどちらか一方の中学校に西清小学校の全ての児童が進学することを検証すると、それぞれの中学校の位置や通学区域を考えると難しいものと判断されます。

また、地域特性に配慮し、木更津第一中学校に進学する児童を木更津第一小学校へ、木更津第三中学校に進学する児童を祇園小学校へ統合することを検証すると、この場合木更津第一小学校は適正規模校から大規模校となり、祇園小学校はすでに大規模校であるので更に大規模化することとなります。

(資料編「シミュレーションA」参照)

以上のことから、西清小学校については現状維持としてやむを得ないものと考えますが、今後の児童数の推移によっては、いずれは統廃合を検討すべきであると考えます。

② 木更津第二中学校区及び太田中学校区について



●請西小学校

請西小学校は、現在28学級と適正規模を大きく上回った学校で、市内で最も大規模な小学校です。今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され、大規模校ではあるものの、教室等の施設は足りる見込みです。

これは、平成18年度に通学区域の変更が行われ、請西小学校の学区の一部である真舟地区が木更津第二小学校へ、太田及び東太田地区の一部が清見台小学校へ編入されたことによるものと考えられます。

しかし、人口が急増している請西東・請西南地区を学区に含んでいることから、児童数の増加が想定され、この場合には、更なる大規模化を招くとともに、施設が不足することとなります。

また、学区全域の通学距離は4キロメートル以内であるものの、学校は学区の北端に位置しています。一方、今後最も児童数の増加が予測される請西東・請西南地区は学区の南側にあたります。

大規模であることを解消するため、隣接する小学校との通学区域の変更を検証しました。隣接する小学校は、木更津第二小学校、清見台小学校、波岡小学校、鎌足小学校です。

まず、木更津第二小学校と清見台小学校は大規模校であり、請西小学校の学区の一部を編入することは、更なる大規模化を招くため難しいと考えられます。

次に、波岡小学校、鎌足小学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難

しいと考えられます。

よって、隣接校との通学区域の変更による学校規模の適正化は困難であると考えます。

残る方策としては、学校の新設・移転が考えられ、請西小学校の場合は移転による学校規模の適正化は難しいことから、学区を二つに分割して、学校を新設することを検証しました。

なお、検証に際しては、さきに述べたように隣接する木更津第二小学校が大規模校であり、平成18年度に木更津第二小学校区となった真舟地区は請西小学校の学区であったことから、木更津第二小学校の更なる大規模化を防ぐためにも、この真舟地区を含めて検討することとしました。

既存施設の有効活用を基本とするため、現在の請西小学校を生かすことを前提に学区を分割すると、請西小学校は学区の北端にあることから、南北に分けることが適当です。南部には前述の真舟地区に（仮称）真舟小学校予定地があり、人口が急増している請西東・請西南地区に近接する位置にあることから、この予定地に小学校を新設することが望ましいと考えられます。

（仮称）真舟小学校予定地に小学校を新設し、請西東地区の一部、請西南地区、真舟地区を学区とする通学区域の再編を行うことによって、請西小学校と、隣接する木更津第二小学校の規模の適正化を実現することができるようになります。

以上のことから、請西小学校については、大規模化の解消のため、学区の南部を切り離し、この切り離れた地区と真舟地区を学区とする小学校を（仮称）真舟小学校予定地に新設する以外にはないと考えます。

●木更津第二小学校

木更津第二小学校は、現在19学級の大規模校です。今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され大規模校のまま推移する見込みです。

また、真舟地区の児童が交通量の激しい国道16号バイパスを横断して通学しており、安全性の確保が課題となっています。

大規模であることを解消し、また、真舟地区の児童の通学の安全性を確保するためにも、前述した真舟地区を（仮称）真舟小学校予定地に新設する小学校の学区とする方策が有効となります。

以上のことから、木更津第二小学校については、真舟地区を学区から切り離すべきであり、この真舟地区と、請西小学校から切り離れた地区を学区とする小学校を（仮称）真舟小学校予定地に新設すべきであると考えます。

よって、木更津第二小学校区内に存する（仮称）桜井小学校予定地は、活用の可能性は低いものと考えます。

■木更津第二中学校

木更津第二中学校は、現在14学級の適正規模校です。今後の生徒数の推移をみると、やや増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移するものと見込まれます。しかし、人口が急増している請西東・請西南地区を学区に含んでいることから、大規模化する可能性があります。

その場合、現在の施設では対応が難しく、敷地形状により十分な運動場が確保できないといった課題もあります。

そこで、隣接する木更津第一中学校、太田中学校、畑沢中学校、波岡中学校との通学区域の変更を検証しました。

木更津第一中学校、畑沢中学校、波岡中学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

太田中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すると、それぞれの中学校区を構成する小学校区から検証する必要があります。前述のとおり、児童が木更津第二中学校に進学することとなる木更津第二小学校と請西小学校の適正配置に向けては、(仮称)真舟小学校予定地に新たな小学校を設置し、通学区域を再編するべきといたしました。したがって、清見台小学校、請西小学校、木更津第二小学校、(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の4校をそれぞれの中学校区に再編するということになります。

そうすると、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校区とし、木更津第二小学校区と(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を木更津第二中学校区とすることが妥当だと考えられます。

(資料編「シミュレーションB」参照)

この場合、太田中学校区を構成する請西小学校区内に木更津第二中学校が位置することとなるため、(仮称)真舟中学校予定地へ移転することが必要となります。

これによって、十分な運動場を確保することができ、更に移転の際適切な施設整備を行うことによって、施設面の課題も解決されるものと考えられます。

以上のことから、木更津第二中学校については、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、(仮称)真舟中学校予定地に移転し、木更津第二小学校区と(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を移転後の木更津第二中学校の学区とすべきであると考えます。

なお、後述のとおり、これによって、太田中学校区も清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を学区とすることとなりますが、適正規模が維持できると考えます。

■太田中学校

太田中学校は現在16学級の適正規模校です。今後の生徒数の推移をみると、増加傾向と予測されるものの、適正規模の範囲で推移するものと見込まれます。

また、人口が急増している請西東地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定され、大規模化する可能性があります。

施設不足及び懸念される大規模化を解消するため、太田中学校の学区を木更津第三中学校の学区へ一部編入するという通学区域の変更案が示されましたが、安易な数合わせの案であり、また、清見台小学校の児童が木更津第三中学校と太田中学校に分かれて進学することとなるため、一つの小学校から一つの中学校に進学するという視点からも、適切な案ではありません。

そこで、大規模化の解消に向けて、改めて隣接する木更津第一中学校、木更津第二中学校、木更津第三中学校、清川中学校との通学区域の変更について検証しました。

木更津第一中学校、木更津第三中学校、清川中学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。

木更津第二中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すると、それぞれの中学校区を構成する小学校区から検証する必要があります。また、前述のとおり、児童が太田中学校に進学することとなる請西小学校の適正配置に向けては、(仮称)真舟小学校予定地に新たな小学校を設置し、通学区域を再編するべきといたしました。

したがって、清見台小学校、請西小学校、木更津第二小学校、(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の4校をそれぞれの中学校区に再編するということになります。

そうすると、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校区とし、木更津第二小学校区と(仮称)真舟小学校予定地に新設する小学校の学区を木更津第二中学校区とすることが妥当だと考えられます。

(資料編「シミュレーションB」参照)

以上のことから、太田中学校については、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、木更津第二中学校が(仮称)真舟中学校予定地に移転する際に、清見台小学校区と規模を縮小した請西小学校区を太田中学校の学区とすべきであると考えます。

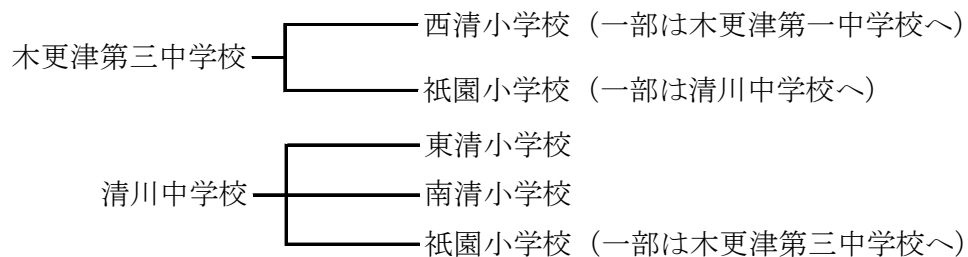
●清見台小学校

清見台小学校は、現在19学級の大規模校です。今後の児童数の推移をみると、増加傾向と予測され、学級数が平成28年度には21学級となり、やや大規模化が進む見込みです。

大規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は、祇園小学校と請西小学校となっていますが、両校とも大規模校であり、通学区域の変更や統廃合は困難であると思われます。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれているうえ、教室等の施設は足りる見込みであることから、清見台小学校は、大規模校であるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

③ 木更津第三中学校区及び清川中学校区について



■木更津第三中学校

木更津第三中学校は、現在10学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、減少傾向と予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

また、木更津第三中学校は、西清小学校区の一部と祇園小学校区の一部を学区としていることから、西清小学校の児童の一部は木更津第一中学校へ、祇園小学校の児童の一部は清川中学校へそれぞれ分かれて進学している状況です。

そこで、これらの課題を解決するため、隣接する木更津第一中学校、岩根中学校、太田中学校、清川中学校との通学区域の変更を検証しました。

木更津第一中学校との通学区域の変更は、西清小学校区のすべてを木更津第三中学校区に変更することが最良となりますが、この変更によって、新たに木更津第三中学校へ通学することとなる地域は、すぐ目の前が木更津第一中学校である地域であるため、通学区域における学校の位置という面で適正を欠き、あまり好ましい通学区域の変更とはいえないと考えられます。

また、岩根中学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難しく、太田中学校とは、前述のとおり、やはり難しいものと考えます。

次に、清川中学校との通学区域の変更については、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すると、祇園小学校区をすべてを木更津第三中学校区に変更することが考えられます。この場合、木更津第三中学校の規模を適正化することができ、なおかつ、祇園小学校の児童が二つの中学校に分かれて進学することもなくなります。

一方で、清川中学校も小規模校であり、これを解消するため、隣接校との通学区

域の変更を検討すべきこととなりますので、祇園小学校区のすべてを清川中学校区に変更するという事も考えられます。そうすると、木更津第三中学校が極端に小規模化し、隣接する学校との通学区域の大幅な再編が必要となります。これに対し、清川中学校は人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから生徒数の増加が想定されています。したがって、地域特性にも配慮したうえで、祇園小学校区を分けることなくすべてをどちらの中学校区へと変更すべきかといえば、木更津第三中学校区とすることの方が妥当であると判断しました。

木更津第三中学校は、施設面からみても、現在改築中であり、新校舎は14学級を想定していて、適正規模の学級数を維持できる学校となります。

以上のことから、木更津第三中学校については、祇園小学校の全学区を含む学区へと通学区域の変更を検討すべきであると考えます。

●祇園小学校

祇園小学校は、現在21学級の大規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、平成25年度には18学級となり、適正規模になる見込みです。

大規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は、清見台小学校、西清小学校、南清小学校となっていますが、清見台小学校も大規模校であり、西清小学校及び南清小学校は施設面に余裕がないことから、これらの小学校との通学区域の変更や統廃合による適正配置は困難であると考えられます。

また、児童が木更津第三中学校と清川中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況であることから、前述のとおり、祇園小学校区の全てを木更津第三中学校区とすることが妥当ではないかと考えます。

以上のことから、祇園小学校については、通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれていると考えられることから、大規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

●西清小学校

木更津第一中学校区で記載のとおり。

■清川中学校

清川中学校は、現在6学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、急激な増加が予測されるものの、小規模のまま推移するものと見込まれます。

ただし、人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定されます。

小規模であることを解消するため、隣接する木更津第三中学校、鎌足中学校、中郷中学校との通学区域の変更を検証しました。

鎌足中学校、中郷中学校については、いずれも小規模校であり、学区の一部を清川中学校区に編入すると更なる小規模化を招くことから、難しいと考えられます。

木更津第三中学校との通学区域の変更については、祇園小学校区のすべてを清川中学校区とすることが考えられますが、前述のとおり、木更津第三中学校の適正規模を確保するため、また、祇園小学校の児童が一つの中学校に進学することができるよう、祇園小学校区については、その全てを木更津第三中学校区に変更することを検討すべきとしたところです。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、木更津第三中学校は、祇園小学校の全学区を含む学区へと通学区域の変更をすることにより適正化を図るべきであることか

ら、清川中学校との統合は難しく、鎌足中学校は小規模校ではあるものの、通学距離や通学の安全性の面から難しいものと考えます。一方、中郷中学校は小規模校であり、統合した場合の通学距離は最長でも片道6キロメートル以内で、通学の安全性にも問題は無いものと考えられます。

また、木更津第三中学校の適正配置の方策を講ずることにより、清川中学校区から祇園小学校区の区域が外れ、生徒数が減少することとなりますが、中郷中学校の統合とほたる野地区の人口増に伴う生徒数の増加によって、適正規模にかなり近づくと考えられます。(資料編「シミュレーションC」参照)

以上のことから、清川中学校については、中郷中学校の統合を検討すべきであり、また、南清小学校区の児童数の推移を考慮したうえで、学区のうち、祇園小学校区の区域を木更津第三中学校の通学区域へ変更することを検討すべきであると考えます。

●東清小学校

東清小学校は、現在6学級の小規模校です。また、児童数は1学年10名前後で、全校児童はわずか66名という、極めて規模の小さい学校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、近い将来、複式学級[※]の対象となる可能性があります。

したがって、適正配置に向けては、隣接校との統廃合を検証せざるを得ないものと考えます。隣接する祇園小学校は大規模校であり、また、地域特性に配慮すれば難しいものと考えられます。一方、南清小学校は小規模校であり、東清小学校との統合は、規模の適正化の点から有効であると考えます。また、南清小学校の児童は清川中学校へ進学しており、統合しても東清小学校の児童が進学する中学校は変わらないこととなります。

ただし、この統合により、通学距離は最長でも片道4キロメートル以内であるものの、通学の安全性には課題が生じるものと考えられます。

以上のことから、東清小学校については、南清小学校への統合が妥当であると考えます。ただし、統合にあたっては、通学の安全性の確保のため、スクールバスの活用などを検討すべきであると付言します。

※複式学級とは、二つ以上の学年を一つにして編成した学級をいう。

●南清小学校

南清小学校は、現在9学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、急激な増加が予測され、平成24年度には適正規模になる見込みです。人口が急増しているほたる野地区を学区に含んでいることから、更なる児童数の増加が想定されます。

施設面からみると、既に、今後の児童数の増加に対応するため校舎を増築するという方向性が市から明確に示されています。増築後は、前述のとおり、東清小学校を南清小学校に統合したとしても、これに足りる学校施設とすることが可能です。

以上のことから、南清小学校については、小規模校であるものの、当面現状維持として、やむを得ないものと考えます。

④ 岩根中学校区及び岩根西中学校区について

岩根中学校———高柳小学校

岩根西中学校———岩根小学校

●岩根小学校

岩根小学校は、現在13学級の適正規模校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測されるものの、当面は適正規模のまま推移する見込みです。

学校は学区の東端に位置していますが、通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれていることから、岩根小学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

●高柳小学校

高柳小学校は、現在18学級の適正規模校です。今後の児童数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され、当面は適正規模のまま推移する見込みです。

学校は学区の北東部に位置していますが、通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はなく、地域との関わりも良好に保たれていることから、高柳小学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

■岩根中学校

岩根中学校は、現在9学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

隣接する中学校は、木更津第一中学校、木更津第三中学校、中郷中学校、岩根西中学校ですが、岩根中学校が小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更や統廃合を考えるにあたっては、地域特性に配慮すれば、岩根西中学校との関わりを重視することが妥当だと考えられます。

通学区域の変更は、岩根西中学校も小規模校であることから、学区の一部を岩根中学校区へ編入することは、更なる小規模化を招くため難しいと考えられます。

そこで、統廃合について検証すると、岩根西中学校はかつて岩根中学校の生徒数の増加に対応するため分離設立された経緯があることから、元来地域コミュニティは一体であり、岩根中学校に統合しても通学距離は学区全域が4キロメートル以内に収まります。

また、岩根西中学校を統合することによって、岩根中学校は適正規模となることが見込まれるとともに（資料編「シミュレーションD」参照）、現在の施設は統合後の学級数に対応可能な教室数を備えています。

しかしながら、岩根西中学校区は現在土地区画整理事業を施行中の金田地区に隣接しており、金田地区の発展に伴って岩根駅周辺の活性化が図られることが期待されている状況をみると、今後の岩根西中学校区の人口に少なからず影響する可能性も考えられます。

以上のことから、岩根中学校については、岩根西中学校の生徒数の推移をみながら、将来的には岩根西中学校を統合することを検討すべきであると考えます。

■岩根西中学校

岩根西中学校は、現在6学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、減少傾向と予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

隣接する中学校は、木更津第一中学校、岩根中学校、金田中学校ですが、岩根西中学校が小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更や統廃合を考えるにあたっては、地域特性に配慮すれば、岩根中学校との関わりを重視することが妥当だと考えられます。

通学区域の変更は、岩根中学校も小規模校であることから、学区の一部を岩根西中学校区へ編入することは、更なる小規模化を招くため難しいと考えられます。

そこで、統廃合について検証すると、岩根西中学校はかつて岩根中学校の生徒数

の増加に対応するため、分離設立された経緯があることから、元来地域コミュニティーは一体であり、岩根中学校と統合しても通学距離は学区全域が4キロメートル以内に収まります。

また、岩根中学校と統合することによって適正規模となることが見込まれます。(資料編「シミュレーションD」参照)

しかし、岩根西中学校の現在の施設は統合後の学級数に対応可能な教室数を備えておらず、歴史的経緯から考えても、統合にあたっては岩根中学校を存続することが適当であると考えられます。

このような現状からみると、統合は規模の適正化に有効と考えられますが、岩根西中学校区は現在土地区画整理事業を施行中の金田地区に隣接しており、金田地区の発展に伴う岩根駅周辺の活性化などによって、岩根西中学校区の人口が増加し、ひいては生徒数が増加する可能性があります。

以上のことから、岩根西中学校については、生徒数の推移をみながら、将来的には岩根中学校への統合を検討すべきであると考えます。

⑤ 鎌足中学校区について

鎌足中学校—————鎌足小学校

●鎌足小学校

鎌足小学校は、現在6学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

鎌足地区は、かつて鎌足村として一つのコミュニティーを形成していたことから、現在も地域のつながりが強く、地域における学校の存在意義は大きいものがあります。また、児童数は全体としては減少傾向にありますが、鎌足小学校の緑豊かで少人数といった教育環境を望み、集団活動に不安を抱える児童が学区外から就学するケースもあります。

小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討しました。隣接する小学校は、南清小学校、清見台小学校、波岡小学校、富岡小学校、請西小学校、八幡台小学校です。

まず、南清小学校は小規模校ですが、今後の児童数増加を見込んで現状維持が妥当であり、また、隣接する東清小学校の適正配置の方策として、将来的には南清小学校への東清小学校の統合を検討すべきであることから、鎌足小学校との通学区域の変更は難しいと考えます。

次に、清見台小学校は大規模校ではありますが、隣接する地域は平成18年の通学区域の変更によって南清小学校から清見台小学校となった経緯があり、再度の変更は難しいと考えられます。

また、波岡小学校、富岡小学校、八幡台小学校は通学距離や通学の安全性からみて難しいと考えられます。

そして、請西小学校は、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設し、現在の請西小学校区と隣接する木更津第二小学校区を、新設校を含めた3校で分割する通学区域の再編が妥当であり、これによって規模の適正化を図れることや、隣接する請西地域を分断して一部を鎌足小学校へ編入するのは、地域特性からみて難しいと考えます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、南清小学校は今後の児童数増加により適正規模となることが見込まれるうえ、東清小学校の統合を検討する必要があるため、更に鎌足小学校をも統合することは難しいと考えます。

請西小学校は、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設する際に、鎌足小学校の統合を視野に入れて通学区域を再編することが考えられますが、これは人口が急増している請西東・請西南地区の状況からみて難しいと思われま

す。清見台小学校、波岡小学校、富岡小学校、八幡台小学校は、通学距離や通学の安全性からみてやはり難しいと考えられます。

以上のことから、鎌足小学校については、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

■鎌足中学校

鎌足中学校は、現在3学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

中学校においては、多様な人間関係を育むことができ、学校行事やクラブ活動等で様々な活動ができる教育環境を整えることが特に重要であると考えられることから、1学年1クラスという状況は好ましくないものと思われま

す。小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討しました。隣接する中学校は、木更津第二中学校、富来田中学校、太田中学校、波岡中学校、清川中学校です。

まず、木更津第二中学校と太田中学校は、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、(仮称)真舟中学校予定地に木更津第二中学校を移転し、その際に木更津第二中学校区と太田中学校区の学区を再編すべきであることから、鎌足中学校との通学区域の変更は難しいと考えま

す。次に、富来田中学校、波岡中学校、清川中学校はいずれも小規模校であるので、学区の一部を鎌足中学校区へ編入することは、更なる小規模化を招くため、やはり難しいと考えられます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、波岡中学校、清川中学校、富来田中学校はいずれも小規模校ではありますが、通学距離や通学の安全性からみて難しいと考えられます。

木更津第二中学校と太田中学校はさきに述べたとおり、(仮称)真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、(仮称)真舟中学校予定地に木更津第二中学校を移転し、その際に木更津第二中学校区と太田中学校区の学区を再編すべきであり、これに伴って木更津第二中学校は現行に比べると鎌足地区に近い位置へ移転し、学区の再編により太田中学校の規模が縮小される可能性があることから、両校と鎌足中学校との統合は困難とは言い切れないものとなります。

以上のことから、鎌足中学校については、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えますが、今後の生徒数の推移をみながら、(仮称)真舟中学校予定地へ移転後の木更津第二中学校や、太田中学校との統合も、将来的には検討すべきであると考えま

⑥ 金田中学校区について

金田中学校———金田小学校

●金田小学校

金田小学校は、現在6学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測されますが、金田地区は二つの土地区画整理事業が施行中であり、この事業の計画人口が1万9500人ということから推すと、いずれはかなり児童数が

増加する可能性があります。

現状では小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は岩根小学校ですが、岩根小学校は適正規模校であり、学区の一部を金田小学校区に編入すると小規模化してしまうことや、岩根地区のコミュニティーを分断してしまうことから難しいと考えられます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、岩根小学校と統合した場合、現状からみれば適正規模となりますが（資料編「シミュレーションE」参照）、通学距離や通学の安全性に問題があることや、金田地区の小学校と岩根地区にある2校の小学校のうちの1校を統合するのは、地域特性を考慮すると難しいと考えられること、更に前述のとおり、金田小学校は現在施行中の土地区画整理事業によって児童数増加の可能性があることから、難しいと考えられます。

以上のことから、金田小学校については、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

■金田中学校

金田中学校は、現在3学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、減少傾向と予測されますが、金田地区は二つの土地区画整理事業が施行中であり、この事業の計画人口が1万9500人ということから推すと、いずれはかなり生徒数が増加する可能性があります。

中学校においては、多様な人間関係を育むことができ、学校行事やクラブ活動等で様々な活動ができる教育環境を整えることが特に重要であると考えられることから、1学年1クラスという状況は好ましくないものと思われれます。

現状では小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更や統廃合を検討すると、隣接する中学校は岩根西中学校ですが、岩根西中学校は適正配置の方策として岩根中学校への統合を検討すべきであることから、金田中学校との通学区域の変更や統廃合は難しいと考えられます。

また、前述のとおり、金田中学校については現在施行中の土地区画整理事業によって生徒数増加の可能性があることから、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

⑦ 中郷中学校区について

中郷中学校 ————— 中郷小学校

●中郷小学校

中郷小学校は、現在6学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

中郷地区は、かつて中郷村として一つのコミュニティーを形成し、現在も地域のつながりが強く、地域における学校の存在意義は大きいものがあります。

小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討しました。隣接する小学校は、東清小学校、西清小学校、祇園小学校、高柳小学校です。

まず、東清小学校は、将来的に南清小学校との統廃合が妥当であることから、中郷小学校との通学区域の変更は難しいと考えます。

次に、西清小学校は、現状維持として、児童数の推移によっては木更津第一中学校に進学する児童を木更津第一小学校へ、木更津第三中学校に進学する児童を祇園小学校へ統合するかたちの統廃合をいずれ検討すべきであることから、中郷小学校との通学区域の変更は難しいと考えます。

また、祇園小学校は大規模校ではあるものの、学区の一部を中郷小学校の学区に編入することは地域特性からみて難しく、また、一つの小学校から一つの中学校への進学が望ましいということを重要視し、全ての祇園小学校の児童が木更津第三中学校に進学できるような通学区域の変更が妥当であることから、中郷小学校との通学区域の変更は考え難いと思われます。

そして、高柳小学校は適正規模校であり、学区の一部を中郷小学校の学区へ編入することは小規模化を招くため難しいと考えられます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、東清小学校は南清小学校との統合が妥当であることから難しく、東清小学校を統合した後の南清小学校と中郷小学校の統合は、通学距離や通学の安全性の面から困難であると考えます。

西清小学校は前述の統廃合を検討すべきであることからやはり難しく、祇園小学校は大規模校であるため、更なる大規模化を招くことから困難です。高柳小学校は、中郷小学校を統合した場合、適正規模を維持する見込みではありますが（資料編「シミュレーションF」参照）、中郷地区の小学校と岩根地区にある2校の小学校のうちの1校を統合するのは、地域特性を考えると難しく、また、高柳小学校に統合した場合、高柳小学校の児童が岩根地区と中郷地区で二つの中学校に分かれて進学することになるため、一つの小学校から一つの中学校へ進学することを重要視すれば適切とは言えず、更に通学距離や通学の安全性からみても難しいと考えられます。

以上のことから、中郷小学校については、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

■中郷中学校

中郷中学校は、現在3学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測されるため、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

中学校においては、多様な人間関係を育むことができ、学校行事やクラブ活動等で様々な活動ができる教育環境を整えることが特に重要であると考えられることから、1学年1クラスという状況は好ましくないものと思われます。

小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討しました。隣接する中学校は、木更津第三中学校、岩根中学校、清川中学校です。

まず、木更津第三中学校は、小規模校であって、祇園小学校の全学区を含む学区へと通学区域の変更を検討すべきであり、学区の一部を中郷中学校区に編入すると、更なる小規模化を招くことから、難しいと考えられます。

次に、岩根中学校は、小規模校のため、岩根西中学校の統合を検討すべきであり、学区の一部を中郷中学校区に編入すると、更なる小規模化を招くことから、難しいと考えられます。

また、清川中学校は小規模校であるので、学区の一部を中郷中学校区へ編入することは更なる小規模化を招くため、難しいと考えられます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、木更津第三中学校と岩根中学校は前述のそれぞれの学校の適正配置の方策から考えると難しいと思われます。

清川中学校は小規模校であり、祇園小学校の児童が木更津第三中学校と清川中学校に分かれて進学している現状を踏まえて、一つの小学校から一つの中学校へ進学することが望ましいということを重要視し、全ての祇園小学校の児童が木更津第三中学校に進学できるような通学区域の変更をすることが妥当です。よって、この方策を実施した際には、清川中学校の生徒数は減少することとなり、ほたる野地区の人口増加に伴う生徒数の増を見込んでも、中郷中学校を統合することは可能と考えられます。さらに、中郷中学校の統合とほたる野地区の人口増に伴う生徒数増加によって、適正規模にかなり近づくものと考えられ（資料編「シミュレーションC」

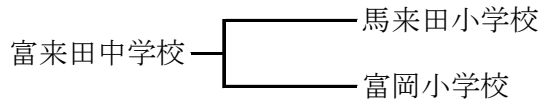
参照)、現在の清川中学校の施設は統合後の学級数に対応可能な教室数を備えています。

また、清川中学校に統合しても通学距離は学区全域が6キロメートル以内であり、通学の安全性に問題はないものと考えられます。

統廃合により中郷地区には中学校が存しないこととなりますが、中郷小学校が当面現状維持として、引続き地域における学校の役割を担い得るものと考えます。

以上のことから、中郷中学校については、清川中学校への統合を検討すべきであると考えます。

⑧ 富来田中学校区について



●馬来田小学校

馬来田小学校は、現在10学級の小規模校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する小学校は、富岡小学校ですが、富岡小学校も小規模校であるので、学区の一部を馬来田小学校区に編入することは、更なる小規模化を招くため難しいと考えられます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、富岡小学校との統合は、適正規模とはならないまでも、現状に比べれば適正規模に近づくと考えられ（資料編「シミュレーションG」参照）、現在の施設は統合後の学級数に対応可能な教室数を備えています。

以上のことから、馬来田小学校については、富岡小学校を統合することが妥当であると考えます。

ただし、統合にあたっては、遠距離通学児童へのスクールバスの活用などを検討すべきであると付言します。

●富岡小学校

富岡小学校は、現在6学級の小規模校です。また、児童数は1学年10名前後で、全校児童はわずか61名という、極めて規模の小さい学校です。今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、平成22年度は複式学級となるところを、千葉県の子級編制の弾力化*により解消した状況です。

よって、適正配置に向けては、隣接校との統廃合を検証せざるを得ないものと考えます。隣接する学校は、鎌足小学校と馬来田小学校です。

両校とも小規模校ですが、地域特性に配慮すれば、馬来田小学校への統合を検討すべきであると考えられます。馬来田小学校への統合は、適正規模とはならないまでも、現状に比べれば規模の適正化の点から有効であると考えます。（資料編「シミュレーションG」参照）

また、馬来田小学校の児童は、富来田中学校へ進学しており、馬来田小学校に統合しても富岡小学校の児童が進学する中学校は変わらないこととなります。

以上のことから、緑豊かで恵まれた学校環境や、地域における学校の存在意義を思うと非常に厳しい決断となりますが、富岡小学校については、馬来田小学校への統合が妥当であると考えます。

ただし、この統合により、通学距離は最長で10キロメートルを越えることが予

想され、通学の安全性には課題が生じるものと考えられることから、統合にあたっては、遠距離通学児童へのスクールバスの活用などを検討すべきであると付言します。

※千葉県の上級編制の弾力化とは、学級担任以外に配置される増置教員を活用すれば、複式学級を単学級として行うことができるというもの。

■富来田中学校

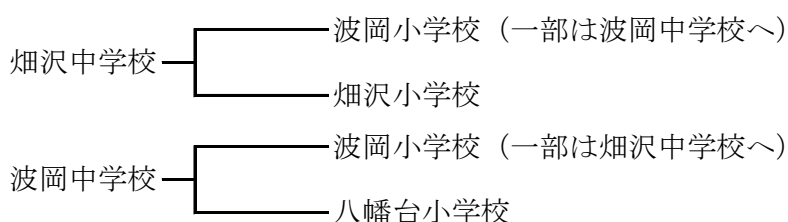
富来田中学校は、現在6学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、減少傾向と予測され、当面は小規模校のまま推移する見込みです。

小規模であることを解消するため、隣接校との通学区域の変更を検討すると、隣接する中学校は鎌足中学校ですが、鎌足中学校も小規模校であり、学区の一部を富来田中学校区に編入すると、更なる小規模化を招くことから、難しいと考えます。

そこで、隣接校との統廃合を検討すると、鎌足中学校も小規模校ですが、統合した場合は、通学距離が非常に長くなることから難しいと考えられます。

以上のことから、富来田中学校については、小規模校ではあるものの、当面現状維持としてやむを得ないものと考えます。

⑨ 畑沢中学校区及び波岡中学校区について



■畑沢中学校

畑沢中学校は、現在13学級の適正規模校です。今後の生徒数の推移をみると、ほぼ横ばいと予測され、適正規模の範囲で推移すると見込まれます。

学校は学区の東部に位置していますが、通学距離や通学の安全性、施設の状況にも特に問題はないことから、畑沢中学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

よって、畑沢中学校区内に存する（仮称）畑沢中学校予定地については、活用の可能性は低いものと考えます。

●畑沢小学校

畑沢小学校は、現在25学級の大規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、急激な減少が予測されており、平成27年度には17学級で適正規模となる見込みです。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はないことから、畑沢小学校については、適正配置の方策を講ずべき要因はないものと考えます。

ただし、将来的には、地域コミュニティとの整合を図るという観点から、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更により波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについて検討する必要があると考えます。

●八幡台小学校

八幡台小学校は、現在15学級の適正規模校ですが、今後の児童数の推移をみる

と、増加傾向と予測されており、平成25年度には19学級の大規模校となる見込みであり、児童数の増加に対応するため、校舎の増築を行っている状況です。

また、人口が急増している羽鳥野地区を学区に含んでいることから、更なる児童数の増加が想定され、予測よりも早く大規模化することも考えられます。

そこで、隣接する鎌足小学校と波岡小学校との通学区域の変更を検証しましたが、鎌足小学校については、地域特性に配慮すれば難しいと考えられます。一方、波岡小学校との通学区域の変更については、波岡小学校は適正規模校ですが、将来小規模校となることが見込まれるため、有効な方策であると考えられます。

しかし、波岡小学校は通学面と施設面に課題があるため、現在の位置や施設のまま八幡台小学校区の一部を編入するのは好ましくありません。

そこで、八幡台小学校区と波岡小学校区に接する（仮称）大久保小学校予定地の活用が考えられます。

八幡台小学校と波岡小学校はともに適正規模校であり、両校の今後の児童数の推移をみれば、（仮称）大久保小学校予定地に新たに小学校を設置する必要はないものと思われまふ。したがって、八幡台小学校または波岡小学校のどちらかを移転することとなりますが、八幡台小学校の学区の一部を波岡小学校に編入する必要があることから、八幡台小学校の移転では解決策にならないと考えまふ。

波岡小学校を（仮称）大久保小学校予定地に移転すると、人口急増地区である羽鳥野地区の一部を移転後の波岡小学校区に編入することができ、これによって八幡台小学校の大規模化を防ぎ、なおかつ波岡小学校の適正規模を維持するとともに、波岡小学校の通学面と施設面の課題も解消できます。

（資料編「シミュレーションH」参照）

以上のことから、八幡台小学校については、波岡小学校を（仮称）大久保小学校予定地に移転し、羽鳥野地区の一部を波岡小学校区に編入すべきであると考えまふ。

●波岡小学校

波岡小学校は、現在12学級の適正規模校ですが、今後の児童数の推移をみると、減少傾向と予測され、平成27年度に10学級の小規模校となることが見込まれまふ。

学校は、学区のやや南西部に位置し、国道127号バイパスと片側1車線の狭い市道に接しているため、通学の安全性の確保が大きな課題となっています。

また、児童が畑沢中学校と波岡中学校に分かれて進学しており、一つの小学校から二つの中学校へ進学している状況や、建物敷地と運動場に借用地があるという課題もあまふ。

そこで、隣接する小学校との通学区域の変更を検証しましたが、木更津第二小学校、鎌足小学校、請西小学校との通学区域の変更は、地域特性に配慮すれば難しいと考えまふ。

畑沢小学校とは、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区域の変更において、畑沢及び港南台地区等の一部を編入した経緯があるので、更なる変更は難しいと考えまふ。

八幡台小学校との通学区域の変更は、前述のとおり、八幡台小学校が大規模校となる見込みのため、規模の適正化には有効と考えまふ。

ただし、ただ編入するだけでは、通学面と施設面の課題が残ります。これらを解消するためには、波岡小学校区の東端に位置しているものの（仮称）大久保小学校予定地への移転が考えまふ。

波岡小学校区内の人口集中地区であるシーアイタウンと八幡台小学校区の羽鳥野地区は、現在は一体となった市街地を形成しており、この地域の中心に（仮称）大

久保小学校予定地があるので、羽鳥野地区の一部を移転後の波岡小学校区へ編入することは自然であり、こうすることにより、波岡小学校の適正規模を維持し、八幡台小学校の大規模化を回避するとともに、人口集中地区への学校の適正配置が可能となります。

ここで、波岡小学校を移転する場合においては、地域コミュニティとの整合を図るという観点から、平成18年度に行われた畑沢小学校の大規模化による通学区区域の変更により畑沢小学校区から波岡小学校区に編入された地域を、畑沢小学校区に戻すことについても検討する必要があると考えます。

この場合、一つの小学校から一つの中学校へ進学することが可能となります。なお、実施の時期等については、地域への十分な配慮が求められることは言うまでもありません。

以上のことから、波岡小学校については、将来的には（仮称）大久保小学校予定地への移転を検討すべきであると考えます。移転に際しては、八幡台小学校区の羽鳥野地区の一部の編入を併せて行う必要があります。

■波岡中学校

波岡中学校は、現在8学級の小規模校です。今後の生徒数の推移をみると、急激な増加が予測されるものの、小規模のまま推移するものと見込まれます。

ただし、人口が急増している羽鳥野地区を学区に含んでいることから、更なる生徒数の増加が想定され、これによって適正規模となることも考えられます。

通学距離や通学の安全性、施設の状況に特に問題はないことから、波岡中学校については、現状維持としてやむを得ないものと考えます。

よって、波岡中学校区内に存する（仮称）八幡台中学校予定地は、活用の可能性は低いものと判断します。

（資料編「シミュレーションⅠ」参照）

（2）学校予定地の利活用

小中学校の適正配置に向けての方策について、学校ごとに検討した結果、学校予定地の利活用については以下のとおりです。

○（仮称）桜井小学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。

○（仮称）真舟小学校予定地

請西小学校の大規模化の解消及び真舟地区の児童の通学の安全性の確保並びに木更津第二中学校と太田中学校の適正配置のため、請西小学校区の南部と、真舟地区を学区とする小学校の建設用地として活用すべきであると考えます。

□（仮称）真舟中学校予定地

木更津第二中学校と太田中学校の適正配置のため、（仮称）真舟小学校予定地に小学校を新設することを前提としたうえで、この小学校の学区と木更津第二小学校区を学区とする木更津第二中学校の移転先用地として活用すべきであると考えます。

□（仮称）畑沢中学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。

○（仮称）大久保小学校予定地

波岡小学校の児童の通学の安全性の確保及び施設面の課題の解消並びに八幡台小学校の大規模化を防ぐため、羽鳥野地区の一部も学区とする波岡小学校の移転先用地として活用すべきであると考えます。

□（仮称）八幡台中学校予定地

活用の可能性は低いものと考えます。